

## ～Esthetiqueされていますか？～

私たちは、感謝がいっぱいな生活を送っている中で、ほんのちょっと嫌なことがあっただけで全部が嫌になってしまうことがありますか。また、ちょっと自分にとって嫌なことが積み重なってくると「別に自分がやらなくてもいい」と放棄してしまうことがないでしょうか。今、嬉しいことと悲しいこととどちらが多いでしょうか。今回のメッセージの題名は「あなたの役割」です。あなたは自分の役割を持っていますか。副題を付けるなら「Esthetiqueされていますか？」です。Esthetiqueの意味、分かりますか。美しくなる・美しくすると言う意味です。聖書に出てくるエステルという人のエステルは星を意味します。そしてEsthetiqueの語源はこのエステルだと言われています。エステルは王さまが開催した王妃を選ぶための美人コンテストで優勝するために6ヶ月間で身も心も全てを磨き上げて優勝して王妃になった人物です。近年では外見を磨き上げることはありますが、内面はどうでしょうか？輝いていますか。世間一般で美人と言われている人は自分の不足に目を向けて満足していません。本当に感謝な所に目を向けている人は少ないです。私たちはどうでしょう。自分を美人だ・ハンサムだと言えますか。私たちも不足を感じています。3. 11の東日本大震災から丸2年が過ぎました。この震災で建てたばかりの教会を失い教会員が日本中に散らされ、まさに悲しみのどん底にいるはずの福島第一バプテスト教会の佐藤彰先生はこの震災で学んだことと感謝を全国に述べ伝えていきます。そしてその佐藤先生と共に行動していた1人のおばあさん教会員の方は「今まで生きてきてこんなに幸せな1年は無かった。だってこんなに感謝をしたことは今まで生きてきた中で1度もなかったから」「自分が今までどれだけ不足に目を向けて不満ばかり言ってきたのかよく分かった」と言っていました。佐藤先生も「私たちは、今までにどれだけ幸せの、感謝のハードルを高く押し上げて、自分のことを見なかったのだろう」と言われます。私たちはどうでしょう。幸せのハードルを高くして不満ばかり言ってきてませんか。そして不満ばかりだと自分の役割を見失います。だってそれが不満だから…。エステルも同じでした。叔父のモルデカイから王様に進言するように頼まれましたが、そんなことすれば殺される、そして同胞は殺されてしまうかも知れないけど何もしなければ助かる…私がやらなくても誰かがやると思ったのです。でも、エステルはみんなに「私のために3日間断食して祈ってください」と伝え、覚悟を決めて王様の元へ行きます。すると王様はエステルの恐れていたようにはしませんでした。神さまは、たくさんの超自然的な方法を用いて神さまは、エステルを、またモルデカイを助けました。私たちに私たちにしかできない素晴らしい役割を用意されているのです。だけど私たちは自分を卑下して「どうせ自分なんて…」と言ったり「今のまま平凡で不足はない」と目を向けなければいけないところに目を向けられないようにされているのです。そして逆に不足や不平不満に目を向けられているのです。自分が本来しないといけないことよりは、自分を守る方向に目を向けてしまうのです。今の日本では自分に危害が及ぶのを避けるために暴行されている人さえ見ないふりをする傾向にあります。だけど神さまは私たちに、たとえ小さな事でも任されている役割を果たして欲しいと願っています。現在NHKの大河ドラマにも取り上げられている新島襄の妻で新島八重という女性がいます。この人は福島県出身で女性でありながら戦って勲章をもらった人です。新島襄がキリスト教とは無縁の京都にキリスト教理念に則った同志社大学を創立するのを支えた人物です。八重はそんなに有名ではありません。自分の役割を果たしただけなのです。みなさんは「自分はそんなに偉い人じゃない」と言っていますか。平凡で良い、【ちょっと】輝いていればいい、自分の役割なんて…誰か他の人がやってくれと言っていますか。しかし私たちはイエス様に出会って信じて変えられてイエス様の輝きを知ったのだから、ちょっと光るのではなく光輝かなくてははいけません。目線が変われば素晴らしいものに気づきます。心が騒いでいると目線も定まらず自分の役割すら分からなくなってしまいます。ですからまず**①自分を見つめる！**ようにしましょう。教会に来る理由は自分を見つめるためです。自分がどうしてつくられたのか、自分がどうして今生きているのか、何のために存在しているのかを知るためです。幕屋には自分を見つめるための水鏡が置いてあったほどです。ダビデは「感謝しつつ主の大庭に入れ」と言っています。自分を見つめるとどれだけ感謝なこと・喜びがあったか分かります。自分がどれだけ神さまに愛されているのかを知るために教会に来ます。自分が本当に輝いているのか、八重の桜のように咲いているのか知って、素晴らしくつくられたことを知りましょう。神さまは、私たちが素晴らしくつくられたのです。私たちの変わりはいません。モルデカイがエステルに「14：もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。」と言いましたが、逆の意味を込めてエステルしがないんだと言う意味で語っています。私たちも同じです。私たちの役割は私たちにしかできません。そして私たちがやらなければいけないことは**②不足から感謝へ！**目を向けることです。感謝に目が向くと「『ありがとう』って言わないといけないな」「この人のために何かしてあげたいな」など私たちがしなければいけないことが分かります。そうしているとされた人がそのようにするようになります。聖書にも「神はその時々種さえも与えて下さる」「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々ははかりをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、心ところに入れてくれるでしょう。」「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださる」と書かれています。志をもっていますか。不足に目を向け不平不満を言うことは簡単、人を傷つけるのも簡単です。しかし、私たちが感謝する目線になれば私たちの生活は必ず変わります。感謝のハードルを下げていきましょう。「感謝じゃないな」と思っても「ありがとう」と言いましょ。そうしないと悪い者に感謝がとられます。感謝が全ての鍵だからです。だから神さまの前に今日からぜひ感謝を捧げていきましょう。そして**③あなたが熱く変える！**パッションです。黙示録3：15～20に書かれています。私たちは生ぬるくなってしまいました。「幸せか？」と聞かれると「分からない」と答え、「ちょっと幸せか？」と聞かれると「ちょっと幸せ」と答えます。「ちょっと～」とよく言います。生ぬるくなっているからです。それは困っていないからです。今日、神さまは私たちに熱いか冷たいかであって欲しいと語られました。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」と語られています。だから神さまは自分を着飾るなどと言っています。豊かだ・幸せだと言い訳をして、本当に見なければいけない自分を見ずにはいられないと言われていました。そして精練れた純粋な金・品性つまり感謝から生まれてくる神への捧げものを持ちなさいといわれています。目に塗る目薬は比較する目線ではなくまっすぐ物事が見えるようになる目にしてくれます。神さまを見るとこれらのものが与えられます。なぜならば私たちは鏡だからです。イエスさまは私たちのために十字架にかかって死なれました。私たちが人を傷つけ悲しませたこと、また、人に傷つけられ苦しんできたこと全てを背負って十字架にかかって私たちの汚れた、苦しんで傷ついた心を全部取り去るために十字架にかかられたのです。裸の恥を表さないための白い衣はイエスさまのことです。衣を着ると言うことはイエスさまを受け入れると言うことです。イエスさまを知ると汚かった自分が赦されたことや受け入れられた、愛された自分分かります。愛されると人は強くなります。絶対に変わります。ですが自分を見ないと、自分の汚さに気がつかないと変わることは出来ません。その自分の汚さに気付かせるためにイエスさまは十字架にかかられました。人は自分の汚さに気付くと落ち込んだり劣等感に陥ることがあります。しかしその上に愛があれば変わろうと思えます。その愛をもって自分が変われば自分のまわりにいる多くの人々がどんどん幸せになります。そしてその人たちから感謝と喜びをもらうことでさらに自分たちは光り輝きエステルのように美しくなることが出来ます。今自分が置かれている現状に不平不満を言う前に自分がどれだけ素晴らしいものとしてつくられたのかを見つめてください。私たちは素晴らしいです。ですが少しEsthetiqueが必要な部分があります。そこを美しくしてさらに光り輝いていきましょう。(要約者：行司 佳世)